

第1B分科会 「教育課程に関する課題」

大分県公立学校教頭会 研究副部長 小野富広

本分科会では、福島県北会津地区教頭会より、「**確かな学力の向上を目指した小中連携の取組と教頭の関わり**」－**学びのスタンダード**」推進事業を軸として、滋賀県守山市教頭会より、「**社会に開かれた教育課程の実現を目指して－未来の作り手に必要な資質・能力を育むための教頭の役割**」－、という提言のもと、活発な協議が行われた。

まず福島県北会津地区の発表は、県教委が中心となり授業の質的改善と教員の指導力向上を目的とした「**学びのスタンダード**」推進事業に、教頭会が主体的に関わり、大きな成果をあげたという報告であった。具体的には、(1) 中学校区ごとに推進協議会を組織し、小中が連携して研究テーマの共有化、授業研究会や講演会の実施、(2) 授業の質と教員の指導力の向上のため中学校での授業のタテ持ち、「**授業スタンダードを活用した校内研修の実施**」、(3) 家庭での学習環境作りをめざした「**家庭学習の手引き**」作成、等である。教頭会として小中連携の推進体制のコーディネートをしたことにより組織同士の連携が密になるとともに、授業力の向上や学力向上において同じベクトルで進むことができ共通理解を図ることができた等が、成果として挙げられた。

協議の柱となった「**教頭として、小中連携を中心に据えた確かな学力の向上への関わり**」については、県が骨格を作り、学校が教頭のリーダーシップのもとそれに肉付けを行う、様々な施策の趣旨説明と共に講師を招聘し職員のモチベーションをあげる等、各県より意見が出た。また9年間を見通すために、中3でめざす子ども像を小中で共有化する、等の助言も頂いた。

次に滋賀県守山市の発表は、教頭会が地域・学校生徒会のパイプ役となって郷土愛を育てていったという報告であった。同市は地域コミュニティの希薄化対策として、家庭・学校・地域が連携し人と人の絆を強くする社会教育の充実を掲げている。しかし、一方で全国学力学習状況調査からは、地域や社会を自分たちでよくしていこうと考える生徒が少ないという現状も見られた。そこで地域になじみを持ち、積極的に地域活動に参加できる子どもたちを育てようと、教頭会が中心に組織づくりを行い、(1) 市内4中学校が1つとなり仲間づくりをねらいとした「**クローバープロジェクト**」、(2) 商工会議所と連携して商い体験を行う「**もりやまいち**」、(3) 5日間の事業所の体験だけでなく、青年会議所所員との講話や地元商品の売り出し方法の見直し等を行う職場体験学習、(4) 特別活動(特に生徒会)担当に若手教員を抜擢し、活動の醍醐味を味合わせながら育成を行っていた。これにより、地域と学校による子どもたちが考える力を育む学びの場の実現、地域の未来について考える生徒の増加、関係団体や教員同士の横のつながりの構築等が成果として表れてきたようだ。

また協議の柱となった「**次代を生きる子供たちに必要な資質・能力**」については、商店街の活性化を考えて、伝統産業に触れながら郷土愛を育むこと、地域や人をつなぐこと、マナー化しないで継続すること(=持続可能)、等が意見交換された。そして副校長・教頭が中心となって小中連携や地域との連携を行うこと、若手教員の育成では丸投げせずプロセスで関わり、任せるのは作業でなく責任であること、等の指導助言も頂いた。

2つの提言・協議を受け、副校長・教頭が地域で連携し協働する姿、職員の意識を高めるために積極的に関与する姿を今後の自分のめざす姿としたい。